ご挨拶

第 16 回 がんワクチン療法研究会の開催にあたって

総会会長　　橋本 直哉
京都府立医科大学 脳神経外科 教授

この度、第 16 回がんワクチン療法研究会総会を令和元年 11 月 30 日（土）に、副会長の竹越國夫先生とともに、京都において開催させていただくこととなりました。京都府立医科大学脳神経外科学の教室員と同門にとりこの上ない光栄と存じております。

日本発とも言えるチェックポイント阻害剤の出現から、多くの施設で免疫療法は日々臨床に応用され、多くの患者さんがその恩恵にあずかっていると思われます。私共も約 15 年前から、主に悪性脳腫瘍領域で免疫療法の臨床試験にとりくみ、様々な基盤研究、臨床研究を行ってきました。それらの過程で、次世代のがん治療の主力としての免疫療法・がんワクチン療法に対する信頼と世間からの関心がいっそう高まってきていると感じます。

臨床試験に携わるなかで、予後が１−２年しか見込まれなかった脳腫瘍において、５年、１０年と長期に生存される患者さんを診させていただきます。一方で、最後の望みとしてがんワクチン療法を受けられたにもかかわらず、功を奏さない患者さんも多くいらっしゃいます。今回の研究会では、これらの差異を明らかにして生存のバイオマーカーを探る目的をもって、「免疫療法における長期生存例と予測因子」をテーマに掲げました。特別講演には京都府立医科大学 消化器内科の内藤裕二先生をお招きし、近年とみに注目を集めている「腸内細菌叢と免疫」について、お話いただきます。一般演題を含めて、活発な討議、討論を行い、今後のがんワクチン療法の方向性を模索したいと考えています。

多くのがん腫はいまだ完治に至りません。これらの患者さんが治癒を語れる未来を目指して、真摯に、みのりのある討議をいたそうではありませんか。運営に不慣れでご不便をおかけする事どもが多くあると存じますが、この心意気に免じて、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

第 16 回がんワクチン療法研究会(AsCaVaTh)学術集会
テーマ　「免疫療法における長期生存例と予測因子」

【プログラム】

9:00～ 9:05　開会の辞　第 16 回がんワクチン療法研究会学術集会
会長　橋本 直哉　（京都府立医科大学脳神経外科学教室 教授）

9:05～ 9:15　総会 村垣 善浩　（東京女子医科大学, 会長）

9:15～10:30　一般演題 1　座長：大野 忠夫　（セルメディシン株式会社）
石川 栄一　（筑波大学）

1. 放射線治療および免疫治療の併用療法が奏功した脳幹部神経膠腫の 1 例
   森本 尭之, 松田 良介, 木次 将史, 朴 憲秀, 高村 慶旭, 竹島 靖浩, 田村 健太郎, 山田 修一, 西村 文彦, 中川 一郎, 本山 靖, 朴 永銖, 中瀬 裕之
   奈良県立医科大学脳神経外科

2. 自家ガンワクチンにより長期生存した進行胃癌（stageⅢA, 根治度 B）例より, 進行胃癌（stageⅢ）における免疫療法の有効予測因子を考える
   竹越 國夫[1], 大村 哲也[2], 島多 勝夫[2]
   [1]竹越内科クリニック内科, [2]射水市民病院外科

3. 集学的治療により長期生存しえた膠芽腫についての検討
   山田 依里佳, 石川 栄一, 杉井 成志, 松田 真秀, 高野 晋吾, 松村 明
   筑波大学医学医療系脳神経外科

4. 自家腫瘍ワクチンによる初発膠芽腫第 III 相比較試験―保険収載をめざして
   新田 雅之[1,2], 村垣 善浩[1,2], 石川 栄一[3], 丸山 隆志[1,2], 生田 聡子[2], 齋藤 太一[1], 都築 俊介[1], 福井 敦士[1], 松村 明[3], 川俣 貴一[1]
   [1]東京女子医科大学脳神経外科, [2]東京女子医科大学先端生命医科学研究所, [3]筑波大学医学医療系脳神経外科

5. 乳癌に対する AFTV の効果
   倉西 文仁
   因島医師会病院外科

10:30～11:15　　会長講演

免疫療法の臨床試験から明らかになったこと

橋本 直哉

京都府立医科大学脳神経外科学教室 教授

11:15～12:15　　特別講演　　座長：松村 明 （筑波大学）

腸内細菌叢はどのようにして決まり，どのように免疫を修飾するのか？

内藤 裕二

京都府立医科大学大学院医学研究科消化器内科学教室 准教授

12:15～13:10　　昼食　（お弁当の用意があります）

13:10～13:55　　一般演題 2　　座長: 竹越 國夫 （竹越内科クリニック）

6. **Wilms tumor 1 ペプチドワクチン治療後の悪性神経膠腫における腫瘍内免疫反応と治療効果予測因子**

横田 千里[1], 高野 浩司[2], 千葉 泰良[3], 香川 尚己[1], 木嶋 教行[1], 木下 学[1], 泉本 修一[4], 坪井 昭博[5], 岡 芳弘[6], 橋本 直哉[7], 杉山 治夫[8], 貴島 晴彦[1]

[1] 大阪大学大学院医学研究科脳神経外科, [2] 国立病院機構大阪医療センター脳神経外科, [3] 大阪母子医療センター脳神経外科, [4] 近畿大学医学部脳神経外科, [5] 大阪大学大学院医学研究科癌ワクチン療法学, [6] 大阪大学大学院医学研究科癌幹細胞制御学寄附講座, [7] 京都府立医科大学脳神経外科学, [8] 大阪大学大学院医学研究科癌免疫学共同研究講座

7. **免疫療法を施行した膠芽腫組織の腫瘍微小環境の解析**

宮崎 翼[1], 石川 栄一[2], 松村 明[1,2]

[1] 筑波大学大学院人間総合科学研究科疾患制御医学専攻, [2] 筑波大学医学医療系脳神経外科

8. **肝細胞癌に対する自家がんワクチン療法の経験**

小池 直人[1], 大島 祐二[1], 武内 俊章[1], 天海 博之[1], 久保田 亨[1], 有田 誠司[1], 岩渕 康雄[2]

[1] 聖隷佐倉市民病院外科, [2] 佐倉中央病院消化器科

13:55～14:00　　閉会の辞